

計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年0ヶ月）

．中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点(平成28年3月31日時点)の中心市街地の概況

前期計画では、再開発ビルの大規模リニューアルにより魅力的な商業環境を創出するとともに、地域資源を活用し、中心市街地に人々が回遊・滞留するための仕掛け作りを行い、商業の活性化を中心としたまちづくり活動の展開に取り組んできた。そして、核事業として進められてきたアステ川西の地下1階リニューアル事業等の実施により、川西能勢口駅周辺の魅力が回復した。さらに、川西市の中心市街地では、民間事業者による商業施設や住宅施設の整備、商業団体や商工会と市が中心となった様々なイベントが行なわれ、今期計画においても滞留時間の増加、人口の社会増につながり、にぎわいが回復しつつある。

また、駅周辺都市整備計画基本構想区域（約38ha）の北に隣接する約22.3haの中央北地区（以下「キセラ川西」という。）での各種整備事業を今期計画での主要事業と位置付け、今後の同地区内における新たな取り組み基盤が整備されることで、更なる活性化が図られることを期待している。

このほか、中心市街地における魅力的でにぎわいのあるまちづくり、まちを回遊・滞留するためのネットワーク構築、様々なイベント事業の展開などを、川西市中心市街地活性化協議会を中心に、商店会や商業団体、商工会等との連携で実施するなど、にぎわいと回遊性の創出に向けた取り組みにより、以前にましてにぎわいが創出されたと考えられる。前期計画では人をまちにより長く滞留させることができなかつたことから、今後、キセラ川西から生まれるにぎわいをうまく活用するとともに、商業者や商店会、商工会・まちづくり組織と市が一丸となって、来街者をひきつけられるような中心市街地の魅力を高める取り組みを進めていく必要がある。

2. 平成27年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

川西市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整を重ねながら、活性化事業に対して、意見や提案を行ってきた。基本計画に位置づけられた事業は概ね順調に進捗しているものと考えている。

中心市街地の現況としては、活性化事業の取り組みにより、人口の社会増減及び来街者の平均滞留時間の2つの目標指標が増加の傾向を示していることから、まちが変化したことで、中心市街地への来街者・居住者が増加し、前計画終了時から更なるにぎわいが創出されたものと考えている。また、基本計画に掲げた目標のうち歩行者・自転車通行量（休日）については、基準値をやや下回るものの、キセラ川西という重要なプロジェクトが進捗中であり、川西能勢口駅周辺とキセラ川西との回遊性を創出して活性化を図り、創出されたにぎわいをエリア全体に波及させることで、数値は今後上昇するものと考えている。当協議会においても、計画事業を継続して実施する一方で、地域住民等からの十分な理解や参加のもと、中心市街地のさらなる魅力創出と活性化に向け、官民一体となって取り組む所存である。

．目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	歩行者・自転車通行量 (休日)	67,830 人 / 日 (H26)	71,727 人 / 日 (H31)	67,159 人 / 日 (H27)	-	
多彩な活動や交流が広がる中心市街地の創造	来街者の平均滞留時間	2.04 時間 (H26)	2.42 時間 (H31)	2.29 時間 (H27)	-	
暮らしたくなる魅力的な中心市街地の創造	人口の社会増減	4 人 / 年 (21fy-24fy 平均)	106 人 / 年 (27fy-31fy 平均)	38 人 / 年 (27fy-31fy 平均)	-	

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

主要事業の進捗状況については4以降に記載するところであるが、キセラ地区でのハード整備は引き続き完了までに時間を要するところ、きんたくんバルをはじめとした活性化に資するソフト事業の効果もあり、今回のフォローアップの結果では3つのうち2つの目標指標は増加を示す傾向が見て取れ、基準値からマイナスとなったものも、微減という状況となった。

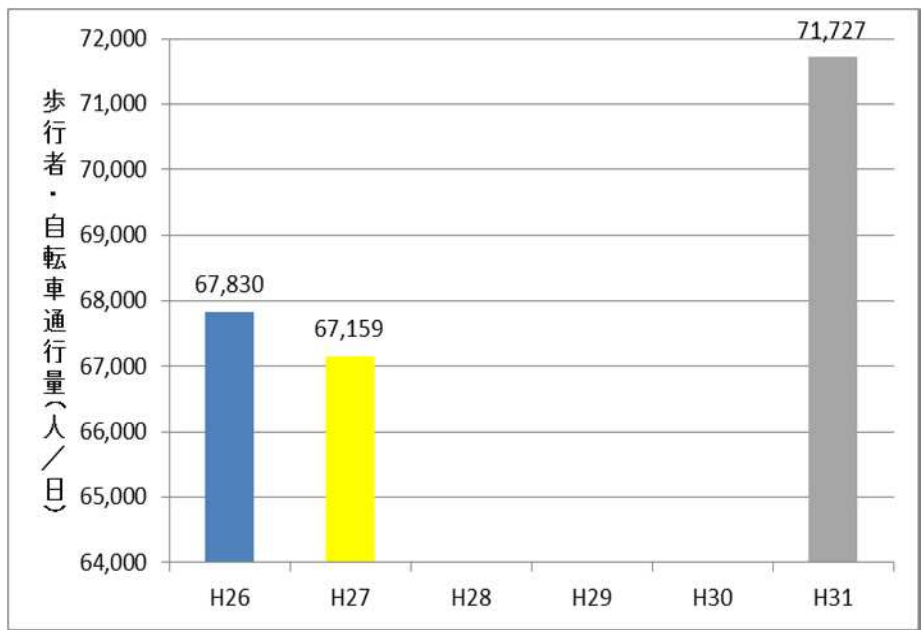
ハード整備が完了した暁には中心市街地としての姿が完成することとなり、居住者に加え、来街する人の量が大きく変化するものと想定していることから、目標が達成可能と判断した。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

今回は第一回目の定期フォローアップとなる。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」 目標設定の考え方基本計画 P68～P72 参照
 調査結果の推移



年	(単位)
H26	67,830 人/日 (基準年値)
H27	67,159 人/日
H28	
H29	
H30	
H31	71,727 人/日 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査

調査月：毎年 11 月実施

調査主体：川西市中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地における休日 10 地点の歩行者及び自転車数

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

08：(仮称)川西市低炭素型複合施設整備事業(川西市)

事業完了時期	平成 30 年 3 月末【実施中】
事業概要	中心市街地において、人々のあいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	当初計画通りに進捗しており、平成 28 年 9 月の工事着手を目指し、実施設計を行っている。

06：中央公園整備事業(川西市)

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩いの場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。
事業効果及び進捗状況	計画・施工・維持管理において市民協働で創り・育て・成長する公園を目指しており、楽しみながら健康づくりや創造的な遊びにつながるアクティビティが展開できる空間を提供する。平成 27 年度から着工し、平成 28 年度末に完了予定である。

05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。
事業効果及び進捗状況	中心市街地において親水性及び生物多様性を創出し、一定の安全性を確保しつつ市民の環境学習に寄与する。平成 27 年度から着工し、平成 28 年度末に完了予定である。

11：キセラ川西マンション建設事業（川西市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	平成 25 年度から実施している P F I 事業の一環として、民間事業者が、平成 26 年度から着工し、平成 27 年度末に完了。131 戸の販売に対して現時点で 90 戸が契約済みとなっている。今後完成予定の中央公園やせせらぎ遊歩道と調和した景観の実現を目指し、多目的スペースの開放など地域連携の醸成に寄与する予定である。

目標達成の見通し及び今後の対策

（歩行者通行量について（地点についてはいずれも基本計画書 69 頁参照。以下同じ。））

1．地点別通行者数を分析すると、もっとも通行量が多いのが地点（川西能勢口駅南の歩行者デッキ）で 2 万人程度の通行量となっている。次いで、地点（アステ川西南側の歩行者デッキ）、地点（川西能勢口駅北の歩行者デッキ）が 1 万人規模の通行量となっている。～の 3 地点で、駅周辺総通行量の 7 割以上を占め、川西能勢口駅を中心とした人の流れが形成されている。

時点別で分析すると、平日は通勤通学者による朝夕の 2 ピーク型の流動であるのに対し、休日は 11 時台～17 時台に多くの通行量が発生する昼間型の流動となっている。

2．平成 26 年度に実施した基準値設定時の調査と比較すると、地点（イオンリテール連絡通路）が 25.4%、地点（モザイクボックス西の歩道）地点（川西市役所西交差点北東側の歩道）が 15% 以上増加しているなど、半数の地点で増加している。対して、先述のとおり通行量の多い 地点での通行量の減少が響き、全体としては前年に及ばない数字となっている。

（自転車通行量について）

1．自転車通行量については地点及びにおいて測定している。

2．休日は両地点ともに前年より増加しており、特に地点では 28.5% と大幅な増加となっている。

（総括）

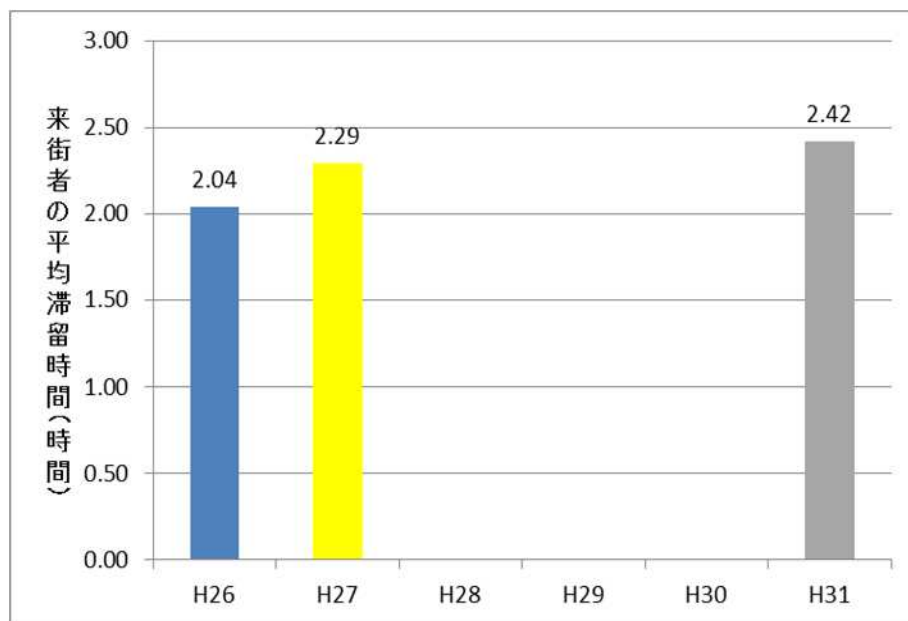
歩行者通行量の目標に関する事業については、順調に進捗している。「かわにしにぎわい創出イベント」において実施した川西能勢口駅周辺での商業振興を目的としたイベント事業の効果等により、引き続き前年度と変わらない通行量が確保できている。

一方で、主要事業に掲げているハード整備が引き続き実施中であるため、具体的な効果が発現しておらず、大きな通行量の増には繋がっていない。

今後は、事業完了に向けて進捗しつつ、更なる賑わいの創出を図るために、アステ川西を中心とした川西能勢口駅周辺の回遊性のさらなる促進に継続的に取り組むとともに、今後に整備されていくキセラ川西を見据えたうえで、川西能勢口駅周辺とキセラ川西の2つの拠点の回遊性を更に高めるため、「バル」や「まちなか美術館」といった、まちなかを歩くイベントの開催を継続的に実施するとともに、各種イベントなどの企画・実施をレベルアップすることで、更なるにぎわいの創出を図り、歩行者通行量の増加を目指していく。

「来街者の平均滞留時間」 目標設定の考え方基本計画 P72～P76 参照

調査結果の推移



年	(単位)
H26	2.04 時間 (基準年値)
H27	2.29 時間
H28	
H29	
H30	
H31	2.42 時間 (目標値)

調査方法：まちなか滞留・実感調査（アンケート）

調査月：6～7月

調査主体：(株)地域環境計画研究所

調査対象：川西能勢口駅周辺

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

08：(仮称)低炭素複合施設整備事業(川西市)【再掲】

事業完了時期	平成30年3月末【実施中】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	当初計画通りに進捗しており、平成28年9月の工事着手を目指し、実施設計を行っている。

06：中央公園整備事業(川西市)【再掲】

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	(再掲)
事業効果及び進捗状況	計画・施工・維持管理において市民協働で創り・育て・成長する公園を目指しており、楽しみながら健康づくりや創造的な遊びにつながるアクティビティが展開できる空間を提供する。平

	成 27 年度から着工し、平成 28 年度末に完了予定である。
05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）【再掲】	
事業完了時期	平成 28 年度【実施中】
事業概要	（再掲）
事業効果及び進捗状況	中心市街地において親水性及び生物多様性を創出し、一定の安全性を確保しつつ市民の環境学習に寄与する。平成 27 年度から着工し、平成 28 年度末に完了予定である。

：きんたくんバル（中心市街地活性化協議会、きんたくんバル実行委員会）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口周辺の美味しい・楽しいお店を広く知ってもらうために、各店舗を PRするとともに、「食べ歩き、飲み歩き」のイベントを実施し、来街者に参加してもらうことでにぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度は春・秋の 2 回実施し、それぞれ 68 店舗の参加があった。滞留時間の創出には「食事・喫茶」が必須の機能であり、バル独特の雰囲気、普段行き慣れない店にも気軽に立ち寄れることから、消費効果に加え、来街時に普段使いしてもらえる店舗を増やす効果も見込んでいる。

目標達成の見通し及び今後の対策

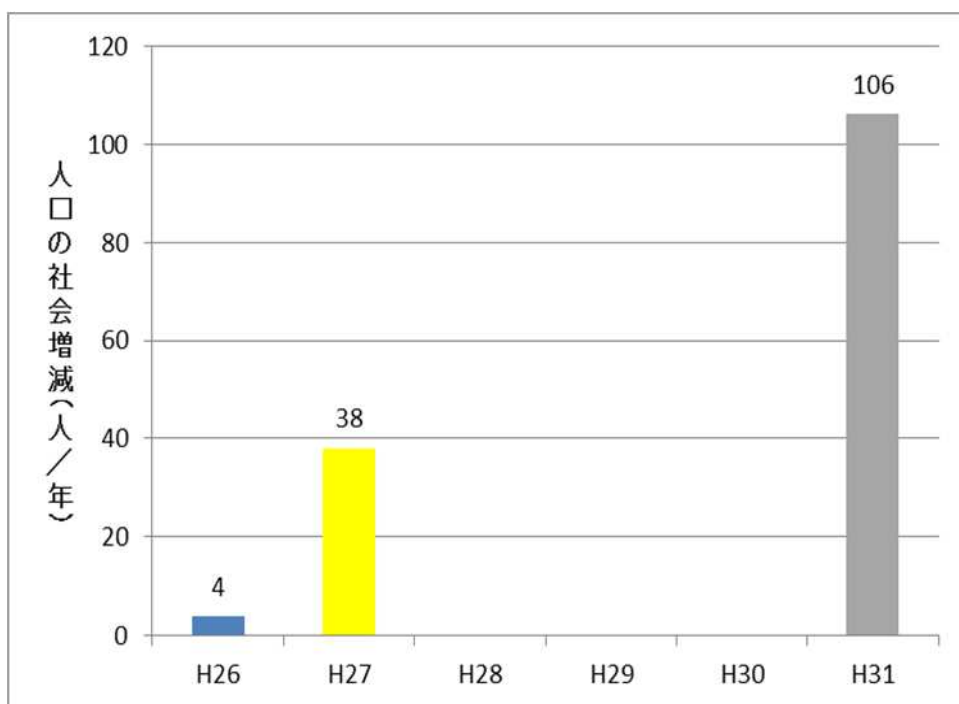
中心市街地内の滞留時間を計測したところ、平日で 2.36 時間、休日で 2.20 時間と平日のほうがやや長く、全体の平均時間は 2.29 時間と、基準値より 0.25 時間増加している。アンケートで特筆すべきだったのは、『買い物の便利さ』については「とても満足 or 満足」の回答が 59%を占めており、「不満」という回答はわずか 4%に留まっていた点や、『居心地の良さ』については「とても満足 or 満足」の回答が 57%、「不満」という回答はわずか 3%に留まっていた点であった。まちなかに欲しい店舗としては「音楽ライブが楽しめる店」、「地元食材を味わえる飲食店」を求める回答が多く、子連れでの利用が可能な店舗を求める声も多かった。まちなかに欲しい施設や空間・移動手段としては「ゆっくり一人で過ごせるベンチ」「ゆっくり歩きたくなる散歩道」が最も求められていたことなどから、中心市街地へのニーズを常に意識した事業展開を図っていくことで、更なる滞留時間の増加が見込めるものと考えられる。1 時間 30 分以上の滞留者を分析すると、「食事・喫茶」を目的とする割合が高く、滞留には必須の機能といえる。飲食店のニーズの高さについては既述であるが、どのような店を求めるかという自由回答ではそれぞれの気分に合った声が挙げられており、多様性が求められている。「きんたくんバル」は飲食店のバリエーションを伝える方法として継続開催しているが、こうした店の魅力を伝えるための日常的な活動を引き続き実施していきたい。

一方で、調査は駅周辺で行ったものであるが、中心市街地内の他のエリアへの回遊はほとんど見られなかった。今後、目標積算の主要事業であるキセラのハードが整備されれば、回遊性が創出され、更なる滞留時間の増に繋がると考えられることから、引き続き主要事業を順調に進捗していく必要があると考える。

「待ち合わせまでの 30 分の使い方」という質問項目では、半数以上が「周辺のお店をのぞ

いてみる」と回答。このことから、まちなかを回遊する価値が一定認められており、そこから消費につなげるには、エリア全体の集積を伝え「行ったことのない店への入り口」を作るイベントや情報の発信を充実していく必要がある。

「人口の社会増減」 目標設定の考え方基本計画 P77～P79 参照
 調査結果の推移



年	(単位)
H26	4人/年 (21fy-24fy平均) (基準年値)
H27	38人 (27fy-31fy平均)
H28	(27fy-31fy平均)
H29	(27fy-31fy平均)
H30	(27fy-31fy平均)
H31	106人/年 (27fy-31fy平均) (目標値)

調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口の社会増減を集計

調査月：毎年4/1現在

調査主体：川西市

調査対象：中心市街地エリア(10地域)

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

11：キセラ川西マンション建設事業(川西市)【再掲】

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
事業効果及び進捗状況	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。 131戸の販売に対して現時点で90戸が契約済みとなっている。今後完成予定の中央公園やせせらぎ遊歩道と調和した景観の実現を目指し、多目的スペースの開放など地域連携の醸成に寄与する予定である。

12：サービス付高齢者向け住宅施設整備事業(川西市)

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	高齢者の居住機能の強化を図るために、川西能勢口駅前にサービス付住宅施設を整備することで、中心市街地の居住機能を向上させる。
事業効果及び進捗状況	平成27年7月から事業を開始している。平成28年4月現在、55戸数のうち入居可能部屋数は13となっており、中心市街

	地における社会増に寄与しているものと考えられる。
--	--------------------------

目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年4月1日時点において、中心市街地の人口は増加傾向にある。同年の国勢調査(10月1日時点)速報値によると、市の人口は全体として58人増加していることが明らかとなった。調査手法は異なるものの、中心市街地においては当該国勢調査結果の半数を超える社会増を計上しており、基本計画でソフト・ハード両面の活性化施策が効果を表してきたものと推測する。

対象10地域を地域別に分けて傾向を推し量ると、小花1丁目が最も大きな社会増を計上している。これは、エリア内に建設されたマンションの居住者が増加したことが要因と考えられる。反面、小花1丁目及び2丁目、火打1丁目地域、栄根2丁目地域においては、同地域からの転出、市内転居が多く見られた。

小花1丁目地域においては、同年7月にサービス付高齢者向け住宅施設が完成しており、次回フォローアップでの増加が予測される。さらに、今後、主要事業であるキセラ川西エリアのハード事業が完了すれば、実際に居住するイメージが湧き、キセラ川西マンションへの居住で更なる人口増が予測されることから、引き続き主要事業を順調に進捗していく必要があると考える。